

軌跡を辿って再訪の親子

令和6年2月、一組の親子からある1通のメールが届きました。メールの内容は、8年前（平成28年3月27日）に南相馬で行った植樹祭会場に自分たちが植えた木を見に行きたい為、会場の場所を教えてほしいというものでした。

当日、関東方面から電車でいらした田中正文さん親子を会場まで案内し今回見に来た経緯等を伺うと、第3回植樹祭に父と息子で参加し、その当時息子は10歳であれから8年後の今、現状がどうなっているのかを息子に見せたかったことと、当時植樹した苗木は自宅で育て運んで来たものだった為、どれくらい大きく育っているかを見たかったそうです。

8年間の月日を経て苗木は高さが約3～4メートルほどに成長しており、多種多様な植物が植えてある広葉樹の森となっていました。

親子はA-8番ブロックで植樹を行っていたそうで、該当場所に移動し当時植えた木を探し始めました。植樹した木の付近には目印を置いていたそうですが、その目印はみつかりませんでした。当時の記憶を頼りに植えたと思われる木を発見することができました。

親子は8年前に植えた当時の息子さんより小さかった木が大きく育っていることと、自身が植えた木が防波堤の一部になっており、人の役に立っていることに感激を受けたと話していました。



帰り際、正文さんは「息子が高校生になり親子で過ごす時間は少なくなってきたが、お互いに『南相馬に行く』という機会により有意義な1日を過ごすことができた。今度は息子が大人になったらまた来てどんなふうに成長していくのかを見たい」と話していました。

鎮魂復興植樹祭は毎年行われております。

植樹した木は年月をかけ大きくなり多くの人を助ける力となります。

皆様のご参加をお待ちしております